



◆『無効茎』の抑制・倒伏防止で収量アップ

稲作で水管理、肥培管理は品質・収量を大きく左右する重要な作業となっております。生育ステージを知り、肥料・農薬等の効果を最大限に引き出すことで、コスト低減、所得増大に繋がります。

※側条の場合

～6月25日頃

有効茎確保後は、
充実した茎になるよう
管理

【最高分けつ期】

7月5日頃
(出穂30日前頃)

【幼穂形成期】

7月10日頃
(出穂25日前)
幼穂が
形成される時期

7月15日頃
(出穂21日前頃)
籾数決定！

【減数分裂期】

7月25日頃
(出穂14日前)
**重要な穂肥の
時期**

出穂期が8月5日の場合

重要

～無効茎を抑制する～

「無効茎の抑制」は、有効茎の充実を図るための重要な管理です。無効茎の放置は登熟歩合の低下を招き、穂の充実を阻害する原因となります。

★**有効茎が確保**出来たら、無効茎を抑止するために **MCP 除草剤の薬効特性を利用することも一つの方法**です。
(特に美山錦等の倒伏の危険性がある品種)

※幼穂形成期直前の MCP 除草剤の散布は幼穂にダメージを与える可能性があり危険です。

中干しの簡易診断(あきたこまちの場合)

有効茎決定後に、稲の茎数や草丈をよく観察し目標の茎数を確保したら、深水管理・中干しを実施します。(7日～10日間)

6月25日頃(草丈38cm)
9葉期(有効茎決定期)

70株植	19本/株
60株植	23本/株

◎中干しの目的と効果

・水を切ることにより無効分けつを抑え、茎数過多を防ぎます。また、受光体制が良好となり健全な有効茎となります。加えて、倒伏しにくい稲体となります。

注)幼穂形成期前には終了するようにします。

▶幼穂形成期の追肥の考え方

- ①本命である減数分裂期の追肥に適期適量を施せるように、極端に葉色が落ちた場合のみ一時的な「つなぎ」として施用します。
- ②幼穂形成期の肥効は、穂長、籾数を増やし、効果的ですが、一方で節間伸長に伴い倒伏の危険性が高まります。

7月下旬(出穂10日前) ▶減数分裂最盛期

※次号では穂肥(減分肥)の目安となる

ようじかんちょう
「**葉耳間長**」について掲載します！